

緑ネット通信 No.53

緑のネットワーク・まつど

代 表 : 川上将夫
年 会 費 : 1000 円
口 座 番 号 : 00170-9-696174
連 絡 先 : 高橋盛男 090- 2935- 9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動のテーマは、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

毎月やって来る葛飾区の保育園児。今日は何する？(関さんの森)



近隣の保育園から。何を見つけたのかな？(ハケ崎の森)



恒例の「セタプロジェクト」…増えすぎて困る竹を「みどりの行動会議」と行政の協力により子どもたちにお届け！ 個別対応でのお届けもありました。(野うさぎの森)



小学校の自然体験授業 (根木内歴史公園)



小さいけれど
なかなかやるじゃない
松戸の森!
2016 夏

子育てクラブのパパたちが竹の伐採(秋山の森)から準備に汗を流した「流しそうめん」。食器づくり指導などもボランティアが応援しました。



ヤマコリ鑑賞会 (芋の作の森)

森を森のまま維持している所有者さんの理解と、汗を流すボランティアと、協働する行政とがあってのことですね！

中高生らのボランティア活動体験「Let's 体験」は、森の見学、作業体験のみならず流しそうめんや草木染などのお楽しみもあり、盛りだくさん！(三吉の森)



セタプロジェクトから発展した竹工作



短大生は必要な竹を切り出し汗びしょりに、生涯学習大学の学生は学びと体験に訪れました。(秋山の森)



「松戸あそぼうよ」による子どもたちの木登り体験(囲いやまの森)

NPO法人子どもとまつどによる親子の自然体験(2ページに記事あり)



恒例の「流しそうめん」でボランティア体験の高校生が大活躍し、子どもも大人も楽しんだ。(関さんの森)



どんちゃんぐりちゃんの自然展「竹ぼっくりと水鉄砲を作ってあそぼう」受け付け開始前から並ぶたくさん参加者(21世紀の森と広場)



ジャガイモ掘り(石みやの森農園)



虫ハカセ(根木内歴史公園)

特別寄稿

子ども自然・アート体験教室

～まつどの里やまで あそぼう～

NPO 法人子どもとまつど 加賀まゆみ

「子どもとまつど」は、子どもたちが豊かな「子どもの時間」を過ごすために、ワクワク・ドキドキの「生」の体験の場を提供する活動をしています。

「自然体験」「ものづくり体験」「障がいのある人との交流体験」「アート体験」「鑑賞」等を通して、人と人とのつながりの中での子育てを大切に考えています。

「子ども自然・アート体験教室～まつどの里やまであそぼう～」では、松戸市内5か所の里山で活動している団体の皆様に協力していただきました。体験教室は、身近な林や森で五感を使った活動を行い、自然に親しみながら創意工夫する、協力すること等を学ぶ場としています。これまで、子どものみの活動でしたが、「子どもとまつど」では、「子どもたちの親世代も子どもたち同様、自然と関わる事が少ないのではないか？」ということで、昨年度から親子参加の活動となりました。親子で参加して同じ体験をすることによって、自然への共通の興味を持つことや、一緒に考える機会ができるなどの良い点があるように思います。

里山での体験として、「石みやの森」(6月5日実施)で木を使った名札作りとネイチャーゲーム。隣にある「みなみの森」(6月5日実施)では、竹の切り出しと枝打ちを体験し、お母さんたちも積極的にかかわっていました。全員で協力して竹を運び、「ティピー」を作りました。子どもたちも名札用の木や竹をノコギリで切る体験を楽しみました。

「溜ノ上の森」(7月24日実施)では、虫探しと観察を行いました。子ども班と大人班



に分かれ、虫の仲間探しビンゴカードを使い虫探しをしました。クリアカップに見つけた虫を入れ、いろいろな角度から観察できました。溜ノ上レディースの皆さんの博識には感心しました。中高生のボランティアも参加し、とても賑やかな体験日となりました。

8月には「秋山の森」で竹の工作、10月には「囲いやまの森」で森ならではの遊びをします。9月と12月は、あそぼうパンとネイチャーゲーム、バウムクーヘンを焼いて食すプログラムを行います。これら6回の教室は親子で一緒に自然の中でいろいろな事を実感できる良い機会となっています。

しかし、課題としては、親子参加が原則なので家族の都合等で欠席となってしまうことや、自分の子どものことが気になってしまいがちな保護者もいるので、これらの点については、スタッフの中でも話し合いをし、改善していく考えです。

体験教室を通して、松戸市内にある里やまを知ること、身近な自然を見つけ、それぞれの場所で生き物や植物を守り、保全している人たちがいることを知ることができました。

今日、刃物を使うような負の体験を極力排除する傾向がありますが、ケガをしたらどうするのと危険を避けるだけでなく、危なくないように使う知恵も教えてもらえた時間でした。

松戸は住宅地も多く、どんどん緑が減っているように思います。今まで見過ごしていた自然を改めて教えてもらい、新たな発見がありました。松戸の貴重な緑をいつまでも残してほしいと感じることができた大切な体験となりました。



特集

**自然の残る「野うさぎの森」
樹人(じゅうに)の会 山田 博道**

「野うさぎの森」は、東松戸駅から徒歩 15 分程、市立松戸高校グラウンドの近くにありま。広さは約 1.8 ha、林縁は公道に接しておらず、都市部ではあまり見ることができない自然が残る森です。

◆**どんな森？** 2014 年度に「里やまボランティア入門講座」を受講した仲間で結成した”樹人(じゅうに)の会”が、地権者の同意を得て 2015 年 10 月末より保全活動を始めた森で、本格的な整備はこれからです。

公道に接して居ないためか、野ウサギやタヌキ、フクロウなど、稀少な動物や貴重種の植物も少なからず見ることができます。

また、森は落葉高木が多く、長い間人の手が入っていないためか木々が混み合い、立枯れの木や倒木も多くみられます。林床に日光が届かないので、下草はほとんどありませんが、元気のない竹が森全体に繁茂しています。

◆**森の保全活動** 私たちは保全活動の目標として『小動物や植物の豊かな生息場所としての森を維持する』、『近隣住民の方々に親しまれ、自然を楽しむことができる森とする』の二つを掲げました。まず、森に定点写真撮影ポイントを 12 か所選定して森の現況を記録として残し、以後の整備状況の進展を確認できるようにしました。

さらに、フワフワの林床をなるべく守るべく“作業・観察道”や“集会エリア・キッズエリア”など人が入る場所のゾーニングを計画し、それ以外の場所にはなるべく入らないよう配慮しています。

しかしながら、ドンドン侵食域を広げて森の植生を変化させている竹が困りものです。この森では、《千葉県里山林保全整備推進地域協議会》の“森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業”の採択を受けて、森全体の竹の伐採を計画的に行っています。伐採された竹は一部、市内の保育園など児童施設の七夕飾りに活用されていますが、今後はより多くの活用方法を考え、嫌われ者の竹の有効活用を行っていく必要があると考えています。



活動日にオープンする西表ゲート

「野うさぎの森」は、2015 年『オープンフォレスト』“森めぐりツアー”の対象となり、参加者の安全を確保するため、倒木・枯れ枝の撤去、竹の切り株やツルの除去を行いました。今後も引き続き、適正に維持管理していく必要があります。



◆**どうする今後の活動？** 今までもいろいろなイベントに活用されていますが、安全性の確保やキッズ対応エリアの整備等がいまだ不十分です。会員一同がんばって皆様に楽しんでいただける森にしようと考えています。

また、森の保全には「森を知る」ことが大切と考え、森全体の植生を調査して、その結果を活動に役立てようと計画しています。「野うさぎの森」周辺は、街並みが新しく若い世帯が多い地区です。そこで、定期活動日に第四日曜日を追加して近隣の現役世代の入会の促進を図ることも目指しています。

関さんの森 門と蔵再生事業がスタート
～ 関家の門と蔵を、昔の暮らしを学ぶ場に ～
武笠紀子

200 年以上松戸市幸谷に暮らす関家には、江戸時代の門や蔵があります。これらの建造物と、その内部に現存する昔使われた生活用品や農作業用具を共に保存して、この地区の昔の生活がそのまま見られるようにするプロジェクト、「関さんの森・門と蔵再生事業」が始まりました。この事業は千葉県建築士会の支援によるもの。そのスタートに当たり、6 月 18 日には千葉県文化財審議委員の丸山純先生を招いて学習会を開きました。今後 3 年をかけて建物の保存方法などを検討していきます。



江戸時代の門と蔵

「関さんの森を育む会」設立20周年 記念シンポジウムのご案内

～関さんの森から未来への伝言～

武笠紀子

日時：11月6日(日)13:30 (開場 13:00)～16:30
会場：流通経済大学新松戸キャンパス 201号室
松戸市新松戸3-2-1 JR新松戸駅徒歩5分
内容：特別講演、関さんの森20年の歩み、など
参加費：無料 定員：250名
申し込み：当日受付で 先着順
主催：関さんの森を育む会
問い合わせ：090-9156-4960 (木下)

「根木内歴史公園サポーター 根っ子の会」 「オープンフォレスト in 松戸 実行委員会」 全国「みどりの愛護」のつといに表彰

6月12日柏の葉公園で開催された式典で、皇太子同妃両殿下ご臨席のもと緑化推進活動の模範として松戸市から2団体が国土交通大臣から表彰されました。



会費納入のお願い

本年度会費未納の方は、納入をお願いいたします。
年会費 1000円 (口座番号、名称は1p上部の通り)
問合せ 田中 047-343-6022 fwjc1911@mb.infoweb.ne.jp

～しげんのコラム 32～

ナガサキアゲハ

黒いアゲハチョウといえば、クロアゲハやオナガアゲハ。カラスアゲハやキアゲハ、ナミアゲハを含めたアゲハチョウの特徴は、後翅末端の“尾”(尾状突起)であるが、近年“尾”のない黒いアゲハチョウが増えている。ナガサキアゲハである。



ナガサキアゲハ♂ 2016.08.14 千駄堀(21世紀の森と広場)

ナガサキアゲハの“ナガサキ”は、もちろん長崎。シーボルトが長崎で採集してその名前がつけられた。江戸時代までは九州以南に分布していたというが、分布域は徐々に北進。本州では1940年代に山口県、1970年代に兵庫県、2000年には神奈川・東京・埼玉まで達し、ここ10年くらいは松戸でもよく見かける。今は宮城県でも目撃例がある。

ナガサキアゲハ幼虫の食草は柑橘類の葉。したがって、ナガサキアゲハの北上の原因は、温暖な地域で栽培されるミカンが、温暖化によって少しずつ北の方にも広がっていることが原因だ。

昆虫少年だった頃、関西に行かないと採集できなかったナガサキアゲハやツマグロヒョウモンが、今は松戸でも普通に見られる。しかし、一方で姿を消していく生きものがあることを忘れてはいけない。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー39 (観察学習会 54)

「矢切の斜面林からフジバカマの里を巡る」

残された斜面林と知られざる旧坂川河口付近を歩き、みどりの大切さについて考えます

9月25日(日) 9:30～14:00 (小雨実施)
集合 北総線矢切駅 改札口 9:30集合(現地解散)
問い合わせ 090-2935-9444 (高橋)

参加費300円(会員は100円)
持ち物 飲み物、弁当、敷物、帽子、雨具
その他 歩きやすい服装でどうぞ